

ATIS 第 390 回例会報告

2017 年 5 月 17 日 JXビルにおいて第 390 回 ATIS 例会が行われました。

まず代表幹事報告として、次回（6/21）に臨時総会を開催し次年度幹事の承認を行うこと、次年度の分科会研究会のテーマ募集、会員企業に行った活動アンケートのお礼などの報告が行われました。

引き続きパネルディスカッションと講演会が行われました。パネルディスカッションでは、「知財業務における機会翻訳利用の現状と課題 ならびに 将来展望」と題して、知財文献の機械翻訳はどこまで進歩したのか、どこまで進歩するのかという会員企業にとって最近関心の高まっているテーマについて討議が行われました。



最初にモデレータの日鉄住金総研 特別研究主幹 佐近正氏から討議テーマ企画の背景説明とパネリストの紹介が行われました。

今回パネリストとして、NICTフェロー先進的音声翻訳研究推進センター副センター長 隅田英一郎氏、特許庁特許情報室長 遠山敬彦氏といった各界を代表する方と、会員企業を代表してリコーテクニクス社長 来住文男氏をお招きしました。各パネリストから、各界の最新取り組み状況と課題についてのプレゼンテーションの後、活発な議論が行われました。

機械翻訳の性能は翻訳品質・スピードともここ数年で格段に進歩しており、使い方によっては実業務に耐えうるレベルに達していることがわかりました。また、機械翻訳システムはまだまだ急速な進歩の途上にあることから、我々の業務プロセスに大きな変革をもたらす可能性があり、今後の動きに目が離せない状況にあるとの思いを新たにしました。

今回のパネルディスカッションへの参加者は過去最高で、終了後のアンケートでも「有益であった」とする回答が96%あり、会員企業の今後の戦略策定にとって有意義なものとなりました。

講演会は、講師としてファイン株式会社から代表取締役社長 清水直子氏 及びデザイナー 曲尾健一氏をお招きしました。



清水社長からは、「製品安全対策優良企業の取り組み ～歯ブラシ、コップ、介護用品など歯ブラシ屋（4代目）としての取り組み～」と題し、歯ブラシの製造過程・トラブルから生まれた新製品開発事例としてベビー用リング歯ブラシ、障がい者用歯ブラシ、嚥下障害者用コップ、竹の歯ブラシ、富士山歯ブラシといった特殊歯ブラシ開発の裏舞台をご紹介頂きました。

また、曲尾さんからは「「やさしい」を目指すデザイン」と題して、ユニバーサルデザイン、富士山歯ブラシのデザイン開発、メディアユニバーサルデザインについてご講演頂きました。

歯ブラシやコップといった身近な商品の開発にまつわる苦勞と商品に込める思いが伝わるご講演で、これら商品を守る知的財産権の重要性を再認識させて頂く機会となりました。

その後は、JX ビルの X(みらい)プラザにて懇親会を開催しました。夜景の美しい会場にて、いつものように会員企業間で活発な交流が行われ、有意義な例会となりました。

以上